

Feng-Shui Gallery

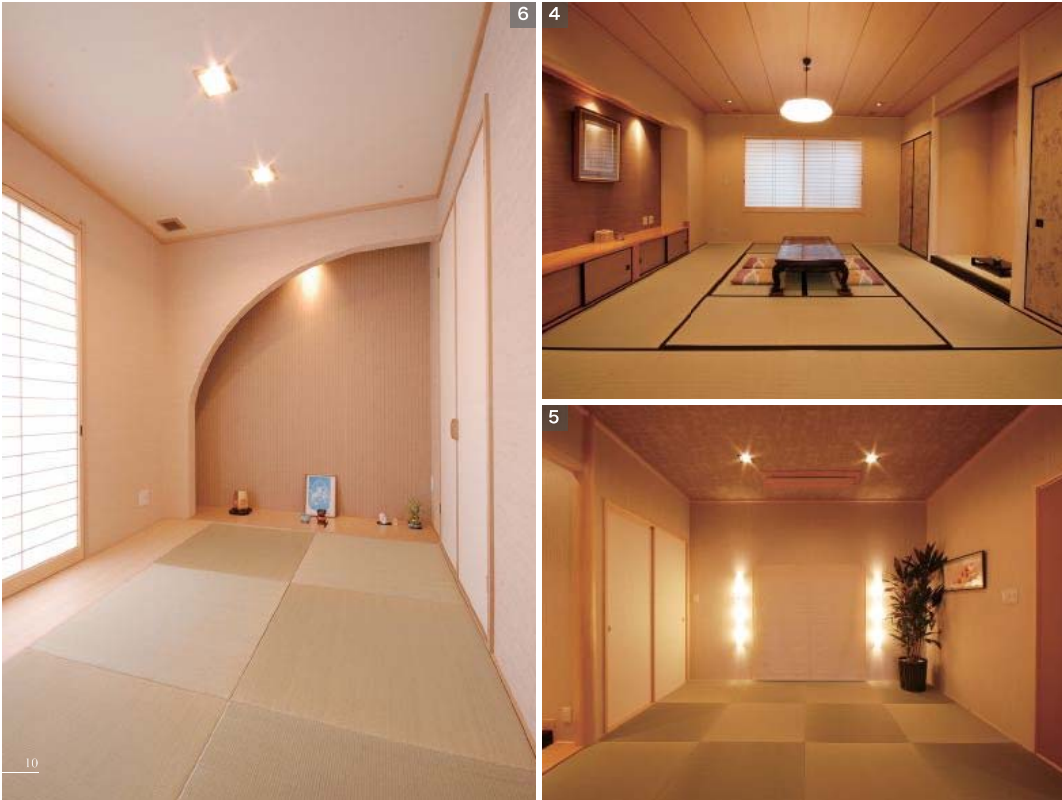
special edition vol.26

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『和室』



【写真1】 床の間の壁がアクセントとなっている和室。板張りの天井が温かみを感じさせてくれます。**【写真2】** リビングとダイニングの間にレイアウトされた和室。琉球畳を使用することで、洋間の中に違和感なくとけ込んでいます。このように壁で仕切らなくても、和室をレイアウトすることで空間の切り替えができ、つながりのある広々とした住空間が構築可能です。**【写真3】** 床を板間にする場合は、和風な板目の木材を選択することが大切です。床の間をつかったり、壁の仕上げ材の雰囲気と和室に見せることは可能です。より現代の住宅環境にあった空間といえるでしょう。**【写真4・5】** 少し明るさを落とした内装が施された和室は、旅館を思わせるような雰囲気のある空間となります。襖紙やシェードカーテンはアクセントとして使いやすいので、空間のポイントとして大切です。**【写真6】** 色合い、素材、琉球畳が相まってとてもすっきりとしたイメージの和室。壁紙の色が温もりと柔らかさをプラスしてくれています。



【大写真】 床の間の下り壁の曲線が印象的な和室。落ち着いた色合いで、柔らかな空間に仕上がっています。日当たりの良い和室は、明るい色彩で構築することで、より一層温かみのある空間となります。

目的や用途に合わせて素材を使い分け 雰囲気重視した空間作りをしましょう

和室の場合、その用途は居間、応接室、寝室、客間など住まう人によって異なる場合が多いため、その目的にあった空間作りが大切になってきます。

使用する素材にしても、板間や畳などの床材と、漆喰・珪藻土などの塗り壁材、織物クロスや紙クロスなどの壁紙材。また襖紙や障子、格子天井など、和室を構成する素材は多く、様々な表情を演出することが可能です。

比較的狭い和室の場合は、明るい仕上げ材を選ぶことで、部屋を広く見せることが可能です。ただし、瞑想室などで使用する場合は、わざと暗めの仕上げ材を選ぶことで、落ち着きと集中力を高めるような空間にすることもできます。

使用する素材の色味が似ている場合は、床の間や壁の一面をアクセントとして色を変えることで、空間に縮まりがでます。

最近では和室を作る家は減少傾向にありますが、畳を正方形の琉球畳にするだけで、すっきりとしたスタイリッシュな空間となるので、洋室メインの住宅でも違和感なく組み込むことが可能です。

神棚や仏間が必要な家に和室は大切な空間ですので、他の部屋の雰囲気と合わせ、デザインすることが大切です。